

第46回 少年少女キャンプ村

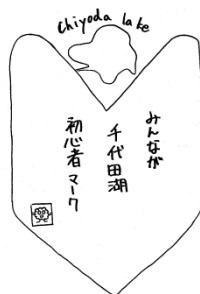
ぼくらの夏の



ぼうけん記

2017/08/05-08

長野県高遠 千代田湖キャンプ場



1日目 生活づくり・キャンプワーク



「どんどん持ってってー！」 村長たちの声が響く。
ここからみんなの生活がスタートします。



「これどうなるの?」「そっちとこっち
がつながる?」「ちがわない?こっち
じゃない?!」「ムズカシイ!!」
「でもなんか楽しい!!」

「以前このキャンプ場を
使っていた新宿区のテント。
今まで使った事のないタイ
プ。来年につなげるために、
今年のこの子たちに覚えて
もらっている。」とのこと。



初参加の父母

大雨から晴天まで、全天候を経験しました。

父母村では、欲張ってやりたいことすべてに挑戦させてもらい、子どももそっちのけで楽しませていただきました。おとなになってもワクワクできる体験って貴重です。

子どもと共に野生化できた時間も貴重でした。生きることのみに絞って過ごせる事は、忙しい毎日に追われる私にとっては貴重な時間でした。

反抗期の子どもも、仲間の中で協力せざるを得ない雰囲気。自分たちのことを自分たちでやる。異年齢集団だからこそ育ち合える場ができて、子どもにとっても親にとっても、参加して良かったと思います。

人見知りで自分をさらけ出すのが苦手な娘の居場所になってくれたら良いと思います。

長い時間をかけて、キャンプを陰で支えてくれた方の力があつてのキャンプ。心から感謝しています。

指導員スタッフの「もえさん」 あなたにとってキャンプって何?

キャンプね：：本当は余り好きではないかも?ただ私の地域の活動は、リーダーの子どもを中心にすることをだいたいしています。私はリーダー指導をしているので、キャンプはその子たちが飛躍する。ものすごく大きく成長すると思っています。
自治委員の子。村長や副村長。各班の班長。その変化を見たくて来ているのかな。



「マカロニをゆでる水加減、これで良いですか？」と聞かれた。
 見ると、マカロニがヒタヒタの水に漬けてある。
 「先にハンゴウでお湯をわかして、マカロニをゆでるといいよ」
 「もうマカロニ入れちゃった…」
 「今出せばだいじょうぶ」と、笑って離れたけど、あの子たちの楽しい一生の思い出になる“失敗経験”を奪ってしまったかも？と心が痛む。

「ピーマン切ってるのに涙出てきたー！！」
 「え？ピーマンで？」「さっきの玉ねぎが今ごろしみてきたー！」



木立の中のキャンプ場は、湿気が多い分“かまどの火がつかない！！”と、大苦戦。4日間の間に腕が上がり、「おれ、6回もつけたよ！」という子もいれば、中学生や指導員に助けられながら「やっとつけられた！！」とニコニコ顔の子もいたとさ。

キャンプ村のお医者さん

医務室を長年支えて下さっている西谷先生にこのキャンプの魅力を聞きました。

「子どもも青年も、その姿を見ている親の顔も、日に日に変わって行くこと」

4日間だけではなくて「去年メソメソしていた子が今年は一とか、「元氣に子どもを引っ張っているあの青年！？」君？子どもの時、医務室で名前を聞いても下向いてたのに」医者の世界では見られない変化を見たり聞いた感じがたり：子どもの世界のダイジェスト版が見られる事。それが楽しいです。

毎年楽しみで来ていたらもう20年以上、スタッフの中に友だちもたくさんできました。

そもそもは、ぼくが新聞でこのキャンプを知って、嫌がる息子二人を無理やり連れていっしよに参加。持ち物を入れて、大きなリュックを買って、着替えをたくさん入れてね。帰ったらどろんこで目だけ光っている状態で、持って行った着替えはそのまま。どこのお宅も同じです。

たまたま仕事が大学病院の医師だったので医療に。嫌々参加した息子たちとは、今は楽しい思い出話です。



食事中、水場で「チヨー楽しかったね!」「楽しかった!」「男女の高学年の子どもたちが、本当に楽しそうに話しています。」

「もしかして板橋だよね? さっきの水かけがそんなに楽しかったんだ?」「チヨー楽しかった!」「何だかわからないけど楽しいよね!」「水をかけるよりかけられた方が楽しい!」「どうして村プロが、水かけ合戦になったの?」

「板橋では板っ子のあそび会でも水鉄砲で水かけやるんです」「戸狩りでも川で水かけ合戦をやっていた。新しいキャンプ場でも水かけやりたいねで、考えたのがさっきのやつ」「そうなんだ!」と私。

思春期真っただ中の子どもたちが、ビシヨビシヨのまま無邪気に笑っています。





班対決!!「30秒で枝を集めて、30秒でその枝を立てて〜。」「どっちが高くできるかな?」「3!2!1!0! はい!手をはなして」「え?放すの!?!」「あぁ〜、倒れちゃう・・・」「倒れないで!!」「やったー!勝った!」「そんな太いのって枝なの!?!」



ハンモックを木にしばって見た。
「もう少し高くしないとハンモックじゃないね。」「誰か乗って見る?」「小さい子が良いね」「じゃあO乗ってみて」「そっとなね」乗る子が2人になって、3人になって・・・
指導員が一人に乗った。
「ぶっ!ハンモックが切れた!」「だいたいぶっ?」「一斉に声が飛ぶ。立ち上がるのを見て安心。
「どうしてだろう:みんな、声をそろえるようにつぶやく。手にとって考えている・・・
事前の地域の集まりで半分編んで来たとの事。ひもを編むのもみんなの手が動いてる。「キャンプ場の木立を生かしたプログラムはできないかと話してハンモックになったんです」「指導員たちでロープワークを勉強して、実踏でやってみて:子どもといっしょにやってみて:みんなの手が動く理由がわかった気がします。



三峰川でLet's enjoy 川あそび！



水がチョー冷たくて、入るのに勇気が必要だったけど、入って見たらスゴク面白かった！！



親として参加した「まさき」「みんな」元指導員の会話

「昨年は、10年振りにスタッフで来て、言われるまま仕事をしていた気がする。今年は資料を担当しながら、指導員の姿にもう少しこうすればいいのにもったいない」そこでもうひと言とか、思いながら見ている」とまさき。

「ぼくもそう思うかな？と予想していたけど『雨の中で大きな声でがんばっているな』とか『指導員ですこいな』なんて、初めてキャンプに来た人みたいに感動している。」

こんな話をしていた9年ぶりに父母村に参加したみんなは、夕食の時、遅れて食事に来た青年スタッフ・けんちゃん顔を見たら途端にお互に指さし「ウフフ」。照れているようなピクリしているようなす。何なのか聞いてみました。

けんちゃん、小学5年の時、テーマ別「秘密基地」の、班の指導員がみんな。

中学2年で自治委員の時、自治委員担当がみんな。

20歳で生活指導の時、本部指導員担当にみんな。

そして9年振りの今日。みんなけんちゃん指導員スタッフ、みんなは親になり父母村。

青年スタッフの中心でがんばっているけんちゃんを見ているみんなの胸中は「ウフフ」秘密です。

テーマ別委員会の指導員たちが創る。友だちの輪を東京中に広げる狙いがあります。



千代田湖をあそびつくそう！



テーマ別の思い出話

「私はうんこ探検隊が楽しかったな。キャンプ場から道のない所を動物のうんこを探しながら下って行くの。鹿やウサギのふんは上にもたくさんあったよね」「草食動物の糞はきれいだったし、タヌキやクマの糞もあった」「ぼくは夜寝ないでウサギを見るチーム良かった」

「テント張って見張ってたんだよね」

「寝ないでいられたの？」

「寝ちゃうんだよ。でも緊張しているからぼつと起きるの。そして周りの子に『ウサギ出てきた？』って聞いて、出てこないと聞いてホッとしたの覚えてる。」

「結局見たの？」

「ううん。でも、あのときだけは忘れられない。」

今の話、ナカさんに聞かせたかったな。彼が初めて事務局長を引き受けた年に、指導員の話し合いに出るよう言われ、最初に参加したのがこのテーマだった。会議から戻って頭を抱えていた。

「自然界の生き物が、人の、ましてやおおぜいの子どものたちの気配を感じたら出てこないだろう。そう思って、指導員に『ほんとに出てくると思っているの？』って聞いたら『夜道を上がってくる車の人、みんな見ている訳だから、野ウサギがああ近くにいるのは確か。出てくるかは分からないけれど、真つ暗な中でみんな待っているの楽しくないですか？』って、『三三三』って言われちゃった。分からない...』って。

キャンプ場を作るために、自分たちで木を倒した経験からか、できた丸太を使うテーマが多いようです。



丸太 de ジビエクッキング

「スウェディッシュトーチ」で、地元でとれる野生動物（うさぎ・いのしし・しか）の料理に挑戦。

「うさぎをさばく時は、どきどき、ハラハラした！」
「でも、食べたらおいしかった！！」
「おいしかったけど、心が痛かった…。残しちゃいけないと思ったよ。」



木の枝でエンピツ・スプーンなど、好きな小物を作ったよ！



飯ごう de スイーツ



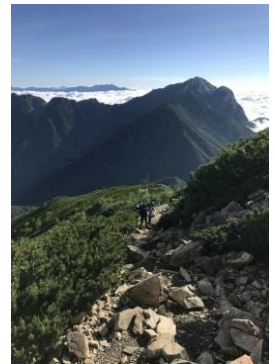
キャンプ場でシフォンケーキを作る！？どうやって？？ 指導員のアイデアで 楽しく おいしいケーキが出来ました。



ボクラちよつくら戸倉山登り隊

帰ってきた・・・「仙丈岳登山隊!!!」
～お久しぶりです、仙丈岳様!～

みんなで登ろう守屋山



子どもが大好き 大出先生

キャンプ村の2回目から23年間。実行委員長を務め、90歳になられた先生に聞きました。

キャンプとの出会いは

少年少女全国センターの日高さんが「子どもの自治をたいせつにしたキャンプを作りた」と思ってた千葉大学の城丸先生に相談したら、大出先生が適任だと言われたと、当時勤めていた学校に何回も頼みに来た。その熱意に動かされたのかな。

自治活動を分かり易く言うと、

リーダーをみんなで決めて、やりたいことを出し合って決め、みんなで実行する。嫌な事は嫌だと言えろということだと思っ。

民主主義の原点ですね。それに「だわっていたのはなぜ」

ぼくは18歳で大井海軍航空隊に志願した軍国少年。特攻隊で生き残った数少ない人間です。軍隊は絶対命令と体罰でした。

「天皇のために死ぬ」しかなかった人間が、戦後どう生きるか考えた。

教師になろうと一念発起して中学の体育の教師になり、千葉大の城丸先生を知った。教育系の集会で一緒に助言者をやってたりしていた。

定年前に退職、センターの会長に。

74歳で長谷村から頼まれ「不登校の子の居場所を創設」今も長谷在住。

子どもの歓声が心地よいと、キャンプに詠まれた俳句は多数

生きざまを 自然の中で

学ぶ子ら



がんばれ
...!!
いいよ!!



雨をものとしめない、元気な
子どもたちを見ながら、思い出
したのは我が家の娘のこと。

4年生で初参加のキャンプ。
帰宅して真っ先に「大雨の中
でキャンプファイヤーやったん
だ!」

それ以来「学校にカサ持って
行って。夕方雨が降るって」
「だいたい雨なんか、雨の
中でファイヤーやったんだか
ら!」

何回耳にしたでしょう。キャン
プに参加して、ひとまわりも
ふたまわりもたくましくなった
娘を感じたものです。

嵐の中の大キャンプファイヤー!



第46回 少年少女キャンプ村 村長・団長さん

☆きのこ村... はな

☆竹の子村... みらい

☆旅に出たこだま村... あんな

☆板橋村(団)... かすみ

☆空前絶後の続村の運命はHA~HAHAHA... ジャスティス。

略してジャスバ村... まり

☆ユニオン村... かずへい

☆ムーミン村... はな

☆フレンド村団... みほこ

みんな頑張ったね!

閉 村 式



この日の朝、近くの公園で「村長会」を開き、閉村式の打ち合わせをしていました。



少年少女キャンプ村は、7月9日の「開村式」で始まりました。

選ばれた4人の自治委員を中心に「目標」「やくそく」を決め、テーマソングを選びました。

台風の接近でキャンプ場での「おわりのつどい」ができませんでしたが、それぞれの村で4日間を振り返り、来年に向けての決意を持ち寄り、9月3日の「閉村式」をもって、名残惜しさを振り切るように終わりました。

自治委員さん、お疲れ様でした。

ゆ う き

ぼくは中1と中3の今年、2回目の自治委員です。はしゃいでいただけた1年の時と比べて、今回は責任感を感じました。ギターをやったり、仙丈岳に上ったり、大雨だったり、いろいろな挑戦して楽しかったです。3人が相談相手になってくれて感謝しています！

み ゆ

村長会であこがれて、初めて自治委員をしました。考えることが多く、何もできない自分に悔しかったけど、たいへんな分だけ達成感がすごくて、やって良かったと思っています。弟が来年中学生です、村長か副村長をやって欲しいと思います。父が指導員でしたが、私も来年は指導員になります！

お世話になった地域の方々

秋山晴樹さん 小澤真由美さん・おかあさん
柿木真一さん 北澤夏樹さん 藤沢宗子さん
簀口健二さん 盛太志さん 盛尚樹さん
横山晴樹さん 横山紀子さん
他多くのみなさま、ありがとうございました。

あ と が き

多くの方々からたくさんの写真やコメント、アドバイスをいただき、『ぼうけん記』を作り上げることができました。

まほ、父母村、スタッフ、指導員のみなさん、ありがとうございました！！ 編集：仲本・山本

ゆ な

初めての自治委員。初めてのキャンプ場。不安が大きかったけど、千代田湖でやれて良かった。雨もあつたしたいへんなことがいっぱいあった。3人や村のみんなに迷惑もかけた。でもこのメンバーでキャンプに行けて良かった。

ゆ う

初参加の時から、自治委員にあこがれていました。キャンプ場も変わり雨も降ったたいへんな今年、村長や副村長の経験もないのに、飛び級でやって…。たいへんなこともみんなと乗り越えて、楽しいに変わりました。まだ中1だからあと2年子どもです。来年も自治委員をやりたいです。パワーアップしてもっと盛り上げたいです。

第46回少年少女キャンプ村を終えて

「おはようございます」元氣なあいさつと歌声が早朝の湖畔に広がっていきます。激しい雨の音にも負けない歌声と熱気が、避難したテントやタープを大きく膨らませていました。台風の影響もあって変わりやすい天気の中でしたが、幸い、晴れ間もあり、大半のプログラムを予定通り行うことができました。

子どもたちはキャンプ前から何回も集まり、話し合い、資材はもちろん、「心」の準備もして千代田湖に集いました。

自然の中での生活は、多くの写真が物語っているように「ワクワクドキ」の連続で、予期せぬハプニングもいっぱい。子どもたちの成長に大きな栄養を与えてくれます。

そんなキャンプ村を自分たちで企画・運営・成功させる達成感・高揚感・歓喜は子どもたちの心にとっかりと焼き付き、一生の「宝物」になり、心からの「仲間」が生まれます。

少年少女キャンプ村は、「子どもが主人公」のキャンプです。あらたな1ページを刻んだ46回目のキャンプ村。これからどんなシーンを子どもたち・青年たちが描いていくのか楽しみです。